

**高知大学大学院総合人間自然科学研究科
修士課程スポーツ・芸術文化共創専攻
学生の確保の見通し等を記載した書類**

1. 入学定員設定の考え方

スポーツ・芸術文化共創専攻の入学定員は、後述の入学・採用のニーズから設定した。入学ニーズ調査では、6人以上の入学ニーズがあり、スポーツ・健康分野と芸術分野で同数程度の入学ニーズがあった。また、企業・団体等へ行った調査では、6名を超える採用ニーズがあり、スポーツ・健康分野と芸術分野で同数程度の採用ニーズがあった。以上のことから、入学定員は6人に設定する。また、後述する入学・採用ニーズ調査結果において、スポーツ・健康分野と芸術分野で同数程度のニーズがあることから、両分野同数の3人を募集人員とする。

2. 定員充足の見込み及び学生確保に向けた取組状況

(1) 定員充足の見込み

【学部卒院生】

本専攻の想定する入学者は、①学士課程でスポーツ・芸術を学んだ学生や、②学士課程でスポーツ・芸術を学んだ学生に準じるようなスポーツ・芸術の専門知識や技能がある学生で、これらの専門的知識や技能を活かして、文化振興などを通じた地域の活性化に関心・意欲がある学生である。①は、教育学部の音楽教育コース、美術教育コース、保健体育教育コースの学生、②は、地域協働学部でデザインやスポーツ社会学等を専攻した学生や、学士課程でスポーツ・芸術を学んだ学生に準じるようなスポーツ・芸術の専門知識や技能を持つのに十分な活動経験があるスポーツ・芸術系サークルの学生である。

想定する入学者の入学ニーズを調査するために、教育学部音楽教育コース、美術教育コース、体育教育コースの3年生（在籍者数：音楽教育コース3人、美術教育コース2人、保健体育教育コース15人）及び高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークルの3年生（学生数：スポーツサークル188人、芸術（音楽、美術）サークル31人）に対し、令和5年1月にアンケート調査を行った。アンケート調査の対象としたサークルは【資料1：高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークル一覧】のとおりである。高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークルの3年生については、高校から大学にかけてのスポーツ・芸術に関する活動経験を尋ね、「経験年数5年以上」の学生を、学士課程でスポーツ・芸術を学んだ学生に準じるようなスポーツ・芸術の専門知識や技能を持つ学生として取り扱う。調査は、【資料2：大学院（修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻（仮称）」への進学に関するアンケート】のアンケート項目により実施し、実施に当たっては、【資料3：高知大学大学院修士課程スポーツ・芸術文化共創専攻（仮称）の概要】を学生に示した。

なお、アンケートでは本専攻において専攻したい分野について、スポーツ・健康分

野、音楽分野、美術分野の3分野を選択肢として尋ねている。アンケートの中で、芸術分野を音楽分野、美術分野に区分しているのは、教育学部のコースに対応した分野とすることで、芸術分野で扱う内容を明確にするためである。アンケート結果では、音楽分野、芸術分野の回答数を合わせた数を芸術分野の回答数とする。

①教育学部音楽教育コース、美術教育コース、保健体育教育コース3年生の入学意向調査結果

「Q10. 大学院修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。」の回答は次のとおりである。

コース名	在籍者数	回答者数	Q10において	
			「受験したいと思う」と回答	「受験しないと思う」と回答
音楽教育コース	3人	1人	0人	1人
美術教育コース	2人	2人	2人	0人
保健体育教育コース	15人	10人	4人	6人

「Q10」において、「受験したいと思う」と回答した人に対する「Q11. スポーツ・健康分野、音楽分野、美術分野の3分野の中で、あなたが勉強したいのはどの分野ですか。」という設問では、全員の回答が所属コースに対応した分野（美術教育コースは美術分野、保健体育教育コースはスポーツ・健康分野）であり、全員が希望分野の学士課程段階の教育を受けていることから、想定入学者に該当する。また、「Q12. 大学院修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」を受験し、合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。」という設問には、全員が「入学したいと思う」と回答した。

以上のように、入学して芸術分野を学ぶことを希望する学生が2人、入学してスポーツ・健康分野を学ぶことを希望する学生が4人いるとの結果となった。

②高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークルの3年生（教育学部音楽教育コース、美術教育コース、保健体育教育コースの学生を除く。）の入学意向調査結果

高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークルには、教育学部音楽教育コース、美術教育コース、保健体育教育コースの学生も含めて、219人の学生が所属している。219人のうち、スポーツサークルの学生が188人、芸術（音楽、美術）サークルの学生が31人である。アンケートには、教育学部音楽教育コース、美術教育コース、保健体育教育コースの学生を除くと、8人から回答があった。「Q5. 高校から大学を通じて、スポーツに関する活動を行っている、または

行っていたことはありますか。活動経験がある方は、高校、大学を通じての活動期間についても教えてください。」「Q6. 高校から大学を通じて、音楽に関する活動を行っている、または行っていたことはありますか。活動経験がある方は、高校、大学を通じての活動期間についても教えてください。」「Q7. 高校から大学を通じて、美術に関する活動を行っている、または行っていたことはありますか。活動経験がある方は、高校、大学を通じての活動期間についても教えてください。」の設問において、「活動期間5年以上」と回答した学生を、想定入学者（学士課程でスポーツ・芸術を学んだ学生に準じるようなスポーツ・芸術の専門知識や技能を持つ学生）とする。「Q5」「Q6」「Q7」への回答状況は、下記のとおりである。

回答者8人の活動期間の回答状況	該当者数
スポーツのみ活動期間が5年以上	5人
美術のみ活動期間が5年以上	2人
スポーツ、音楽、美術とも「活動期間が5年未満」	1人

8人のうち、「Q10. 大学院修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」が設置された場合、あなたは受験したいと思いませんか。」に「受験したいと思う」と回答したのは1人であった。この1人は、「Q7」に対し「美術に関する活動経験があり、活動期間が5年以上」、「Q11. スポーツ・健康分野、音楽分野、美術分野の3分野の中で、あなたが勉強したいのはどの分野ですか。」の設問に対し、「美術分野」と回答しており、想定入学者に該当する。そして、「Q12. 大学院修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」を受験し、合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。」の設問には「入学したいと思う」と回答した。

以上のように、高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークルの3年生（教育学部音楽教育コース、美術教育コース、保健体育教育コースの学生を除く）からは、入学して芸術分野を学ぶことを希望する学生が1人いるとの結果になった。

①②の結果をまとめると、入学してスポーツ・健康分野で学ぶことを希望する学生が4人、入学して芸術分野を学ぶことを希望する学生が3人という結果になった。

【社会人院生】

本専攻の教育内容に関する社会人の学習ニーズについて、①高知県スポーツ指導者へのアンケート、②企業・団体等を実施したアンケートで確認した。

①について、高知県内のスポーツ指導者に対して行ったアンケートにおいて、

「最新のスポーツ理論やスポーツ指導法が学びたいという気持ちはありますか。」、「近年デジタル技術（DX）の活用が進んでいますが、スポーツ場面における DX の使い方（方法）を修得する機会があれば学んでみたいですか。」という問いに対し、どちらも8割以上（72人中、前者が62人、後者が58人）が、「はい」と回答しており、本専攻の教育内容にあたる「最新のスポーツ理論や指導法」、「デジタル技術」を勉強したいと多くの指導者が感じている。

前述のスポーツ指導者のアンケートに表れているような、社会人の学習ニーズを入学につなげるために、県内スポーツ協会に高知県、県内スポーツ・芸術文化施設等のステークホルダーと本学との間で協議会を立ち上げ、協議会の中で学外の構成員に対して、入試広報への協力要請等を行う。

また、②の企業・団体等にアンケートを令和4年12月に実施し、「本専攻へ社員等を入学させたいか」を調査した。調査対象は本学に対して、求人実績又は採用実績がある企業のうち、「スポーツ」、「音楽」、「美術」、「芸術」など、本専攻の目的と関係があるキーワードで抽出した企業217社であり、37社から回答を得た。回答があった37社中、「貴社・貴組織の社員等を「スポーツ・芸術文化共創専攻（仮称）」へ社会人入学させたいと考えますか。」という設問に対して、4社が「入学させたいと思う」と回答した。4社の所在地は、(1)高知県高知市、(2)香川県高松市、(3)京都府京都市、(4)東京都渋谷区であり、近在の高知県高知市の企業・団体等においても、社会人入学のニーズが見られた。アンケートでは、企業の業種や自由記述の内容などから一部の回答では関係の深い分野を推定でき、この4社の関係する分野は、(1)(3)が芸術、(4)がスポーツ、(2)が不明であり、スポーツ・芸術双方の分野で社会人の入学ニーズがある。この4社に「入学させたい場合、どの頻度で入学させたいと考えますか。○/●（●年あたり○人を入学させたい）の形式でご記入ください。」と問うたところ、(1)(2)(3)が1年あたり1人、(4)が3年あたり1人と回答し、4社合計で1年あたり約3人となった。特に、高知県高知市に所在する(1)については、社員等が社会人院生として入学した場合に通学することが容易であると考えられ、現実的なニーズとしては1人となる。

以上のように、企業・団体等からはアンケートにより1人の入学者を見込むことができる。また、高知県内のステークホルダーと協働で設立する「協議会」等を通じて、積極的な入試工法を行うことで、より一層の入学者獲得につなげることができると考えられる。

以上のように、学部卒院生では7人（スポーツ・健康分野4人、芸術分野3人）、社会人院生では1人（芸術分野1人）、あわせて8人の入学希望があり、定員の充足は可能である。また、スポーツ・健康分野と芸術分野で同数程度の入学ニーズがある。

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

本専攻の目的や育成する人材像、教育課程の特色などをPRするためのホームページを作成する。また、広報用パンフレットを作成し、大学内外に積極的に配布するとともに、進学説明会や相談会などを開催するなどの広報活動を行う。大学内では、教育学部音楽教育コース、美術教育コース、保健体育教育コース学生、地域協働学部でデザイン等を専攻する学生、スポーツ、芸術（音楽、美術）に関する活動をしている高知大学公認サークルの学生などに対し、作成したパンフレットを配布するなど積極的なPRを行う。加えて、社会人入学促進に向けて、高知県、市町村スポーツ協会、スポーツ・芸術文化施設に対しては、専攻執行部との意見交換の機会を増やす。

さらに、他大学の学生に対しては、積極的なPR活動や事前相談活動など通じて広く本専攻の存在と意義を広報し、優秀な人材の入学を奨励する。

(3) 学生納付金の設定の考え方

本学の納付金は、授業料年額 535,800 円で「国立大学等の授業料その他費用に関する省令」第2条に定める標準額と同額である。かつ、近隣の競合校と考えられる香川大学大学院創発科学研究科エクスペリエンスデザイン&アートユニット、徳島大学創成科学研究科地域創成専攻と同額である。

3. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本専攻では、スポーツ、芸術の専門知識と地域文化振興、データ分析などを掛け合わせた領域横断的な教育研究を行うことにより、スポーツや芸術の優れた知識・技能を有し、エビデンスベースな研究成果を地域社会に還元することを通じて、文化振興などの課題を解決することができる高度な専門職業人を養成する。

修了後の進路として想定しているのは、①スポーツ・芸術の振興を担う行政職や関連団体の職員（行政職員、市町村スポーツ協会職員、芸術・文化施設職員、文化財団職員）や、②スポーツ・芸術に関係する企業（スポーツ・健康関連企業、デザイン企画企業等）である。②について、具体的な企業内での人材イメージは、次のとおりである。スポーツ・健康分野に関しては、専門領域を体系的に学ぶことで、学術的知見に基づいた高度なトレーニングプログラムの企画や、企業内における他の指導者に対する学術的知見に基づいた指導法の教授などを通じて、企業内でリーダーとなることができるスポーツ指導者である。芸術分野に関しては、美術に関する専門領域を体系的に学ぶことで、デザインや絵画などの技能を活かしたデザインによる企画・商品化や、企業内における他のデザイナーへの教育などを通じて、企業内でリーダーとなることができるデザイナーである。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(1)で修了後の進路として挙げた①の代表的なものとして、行政職がある。高知県職員における行政職の採用者数は、毎年50人程度である。このうち、新規採用でスポーツ行政・文化行政を所管する「文化生活スポーツ部」に配属になるのは、1年あたり4人程度である。高知県の人事戦略において、新規採用職員のキャリアパスの最初にスポーツ行政、文化行政を経験させようと配置するのが、約4人であると考えることができる。本専攻は、こうした人材の供給元となることができる。

②については、令和4年12月、企業・団体等にアンケートを実施し、本専攻の修了生の採用ニーズを調査した。調査は、【資料4：スポーツ・芸術文化共創専攻（仮称）設置に関するアンケート】のアンケート項目により実施した。対象は、本学に求人実績又は採用実績がある企業のうち、「スポーツ」、「音楽」、「美術」、「芸術」など、本専攻の目的と関係があるキーワードで抽出した企業217社であり、37社から回答を得た。

「貴社・貴組団体（ご回答者）は、修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」（仮称）は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。」という問いに対しては、36社（97.3%）が「必要だと思う」と回答し、本専攻の社会における必要性については非常に高い賛同を得た。この結果から、本アンケートの回答企業・団体が、本専攻の必要性が判断でき、かつ必要性を認識していることから、アンケートの調査対象として適切であることがわかる。

次に「スポーツ・芸術文化共創専攻が設置された場合、当専攻の修了生を採用する可能性を教えてください。」という問いに対しては、28社（75.7%）が「採用したいと思う」と回答した。

続いて、「スポーツ・芸術文化共創専攻の修了生を採用する場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。」という問いにおいて継続的なニーズを聞いたところ、毎年の採用予定数として1人以上の人数を回答したのは28社中22社であった。このことから、最少人数の1人を乗じた場合であっても、22人の採用ニーズが存在する。

加えて、上記の問い（「スポーツ・芸術文化共創専攻の修了生を採用する場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。」）に対する回答である毎年の採用予定数を合計すると35人となった。このように、多くの企業に本専攻の修了生の採用意欲があることが分かった。アンケートでは、企業の業種や自由記述の内容などから、一部の回答では、関係の深い分野を推定することができる。この推定（推定不可能な社の回答を除く。）で分野ごとの採用予定数を導くと、スポーツ・健康分野5社8名、芸術分野5社9名となり、両分野とも募集人員を超える採用ニーズがあった。このように、両分野で採用ニーズは同数程度であると言える。

以上のことから、本専攻の設置計画は、社会的・地域的な人材需要と合致しており、専攻の入学定員6名に対して十分な需要が示されている。また、スポーツ・健康分野と芸術分野で同数程度の採用ニーズがある。

高知大学大学院総合人間自然科学研究科
修士課程スポーツ・芸術文化共創専攻
学生確保の見通し等を記載した書類

【 資 料 目 次 】

- 資料 1 : 高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークル一覧
- 資料 2 : 大学院（修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」（仮称））への進学に関するアンケート
- 資料 3 : 高知大学大学院修士課程スポーツ・芸術文化共創専攻（仮称）の概要
- 資料 4 : スポーツ・芸術文化共創専攻（仮称）設置に関するアンケート

高知大学公認のスポーツ、芸術（音楽、美術）サークル一覧

通番	サークル名
1	交響楽団
2	吹奏楽団
3	合唱団
4	美術部
5	写真部
6	陸上競技部
7	水泳部
8	ヨット部
9	サイクリング部
10	Free Climbing Club
11	ワンダーフォーゲル部
12	ダンス部
13	硬式庭球部
14	ソフトテニス部
15	サッカー部
16	ラグビー部
17	バレーボール部（男女）
18	ハンドボール部（男女）
19	硬式野球部
20	バドミントン部
21	アメリカンフットボール部
22	ソフトボール部
23	ライフル射撃部
24	柔道部
25	剣道部
26	合気道部
27	空手道部
28	少林寺拳法部
29	弓道部
30	卓球部
31	体操競技部
32	バスケットボール部
33	バスケットボール部 女子
34	軟式野球部
35	フットサル部(男女)
36	フットサル部(男女)
37	ラクロス部
38	ボート部

大学院（修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」（仮称））への進学に関するアンケート

高知大学では現在、スポーツ・芸術の振興に貢献できる人材の育成を目的に、大学院修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」（仮称）の設置準備（令和6年度設置に向けて構想中）を進めています。設置に当たり、みなさんの意見も参考とさせて頂きたいと思いますので、ご協力をお願いします。

※回答した方の氏名は記録しません。

専攻の概要については、次のリンク先をご覧ください。

https://kochiuacjp-my.sharepoint.com/:b/g/personal/k78293676_kochi-u_ac_jp/ER5K5_D7NSBDI7jE-1LUTTQBg-V5m_7eqgV_lgaEQrU0Ug?e=FiGWau

* 必須

1. 学年を教えてください。 *

- 1年
- 2年
- 3年
- 4年

2. 所属学部を教えてください。 *

- 人文社会科学部
- 教育学部
- 理工学部
- 医学部
- 農林海洋科学部
- 地域協働学部

3. 教育学部の学生にお聞きします。
教育学部の所属コースを教えてください。 *

- 幼児教育コース
- 教育科学コース
- 国語教育コース
- 社会科教育コース
- 数学教育コース
- 理科教育コース
- 英語教育コース
- 音楽教育コース
- 美術教育コース
- 保健体育教育コース
- 技術教育コース
- 家庭科教育コース
- 科学技術教育コース
- 特別支援教育コース
- 所属コース未決定

4. 地域協働学部の学生にお聞きします。
あなたが専攻しているのは「美術（デザイン）」ですか。 *

- 「美術（デザイン）」を専攻している
- 「美術（デザイン）」を専攻していない、または専攻が決まっていない

スポーツ、音楽、美術に関する活動経験についてお聞きします。

専攻の概要については、次のリンク先をご覧ください。

https://kochi-uacip-my.sharepoint.com/:b/a/person/k78293676_kochi-

5. 高校から大学を通じて、スポーツに関する活動を行っている、または行っていたことはありますか。活動経験がある方は、高校、大学を通じての活動期間についても教えてください。

活動例

・スポーツに関する部活や団体に所属していた。 など *

- スポーツに関する活動経験があり、活動期間が5年以上
- スポーツに関する活動経験があり、活動期間が4年以上5年未満
- スポーツに関する活動経験があり、活動期間が3年以上4年未満
- スポーツに関する活動経験があり、活動期間が3年未満
- スポーツに関する活動経験なし

6. 高校から大学を通じて、音楽に関する活動を行っている、または行っていたことはありますか。活動経験がある方は、高校、大学を通じての活動期間についても教えてください。

活動例

・音楽に関する部活や団体に所属していた。
・楽器の演奏をしていた。 など *

- 音楽に関する活動経験があり、活動期間が5年以上
- 音楽に関する活動経験があり、活動期間が4年以上5年未満
- 音楽に関する活動経験があり、活動期間が3年以上4年未満
- 音楽に関する活動経験があり、活動期間が3年未満
- 音楽に関する活動経験なし

7. 高校から大学を通じて、美術に関する活動を行っている、または行っていたことはありますか。活動経験がある方は、高校、大学を通じての活動期間についても教えてください。

活動例

- ・美術に関する部活や団体に所属していた。
- ・絵を描いていた。 など *

- 美術に関する活動経験があり、活動期間が5年以上
- 美術に関する活動経験があり、活動期間が4年以上5年未満
- 美術に関する活動経験があり、活動期間が3年以上4年未満
- 美術に関する活動経験があり、活動期間が3年未満
- 美術に関する活動経験なし

8. 「スポーツ・芸術文化共創専攻」では、スポーツ・芸術に関する地域課題に対応できる人材として「スポーツ・芸術の優れた知識・技能を有し、デジタル技術を活用しながら文化振興や社会教育に寄与する地域文化のリーダー」の養成を目指します。この人材イメージに魅力を感じますか。 *

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力感じない
- まったく魅力を感じない

9. 「スポーツ・芸術文化共創専攻」のカリキュラムでは、次のような特色があります。この特色に魅力を感じますか。

・専門科目において、スポーツ・芸術の理論の講義や実技指導を行う。

・地域社会の中でスポーツ・芸術の振興に貢献できるよう、地域社会の実情や、地域における文化振興、地域の人々へのスポーツ・芸術の指導に関する科目を配置している。

・スポーツ・芸術に関する地域の課題を解決する手段として活用できるよう、デジタル技術やデータサイエンスに関する科目を配置している。

・協働機関（スポーツ・芸術に関する団体）と連携し、職業における実践的な内容を含んだ授業を行う。

・修士論文の研究にあたっては、主に指導を行う教員のほかに、分野の異なる教員や、データサイエンスやDXを専門とする教員も参加し、複合的な視点で指導を行う体制としている。*

とても魅力を感じる

ある程度魅力を感じる

あまり魅力を感じない

10. 大学院修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。*

受験したいと思う

受験しないと思う

11. 「受験したいと思う」と回答された方にお聞きします。

スポーツ・健康分野、音楽分野、美術分野の3分野の中で、あなたが勉強したいのはどの分野ですか。*

スポーツ・健康分野

音楽分野

美術分野

12. 「受験したいと思う」と回答された方にお聞きします。
大学院修士課程「スポーツ・芸術文化共創専攻」を受験し、合格した
場合、あなたは入学したいと思いますか。 *

入学したいと思う

入学しないと思う

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォー
ム所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

スポーツ・芸術文化共創専攻設置の背景

- ・地域社会においては、スポーツ・芸術の分野で、指導者・サポート人材の不足、親しむ機会の不足など、活動を発展、継続していくという点で課題がある。
- ・スポーツ・芸術に関するリカレント教育のニーズがある。
- ・高知大学は、スポーツ・芸術についての教員資源を持ち、スポーツ・芸術振興についての教育研究が可能。また、各教員が高知県内でスポーツ・芸術の振興に関する取組を行っている。
- ・部活の地域移行に伴う課題にも対応していきたい。

スポーツ・芸術に関する課題に対応できる人材の輩出を行ってきたい。

★スポーツ・健康



★音楽



★美術



教員のスポーツ・芸術の振興に関する取組

- ・中高生のスポーツ競技選手にメンタルトレーニングを行い、オリンピック選手やインターハイ優勝選手等を輩出
- ・中山間地域において、音楽鑑賞体験教室「楽器にチャレンジ」を開催
- ・72館のミュージアムが参加する「せとうち美術館ネットワーク」アドバイザー
- ・医学部附属病院にアート作品を展示する「ホスピタルアート」を実施

など…

養成する人材のイメージ

スポーツや芸術の優れた知識・技能を有し、デジタル技術を活用しながら文化振興や社会教育に寄与する地域文化のリーダー

●学位：修士（学術）

●定員：6名

カリキュラム

スポーツ・芸術の専門分野に関する学び

融合

地域社会や文化の振興に関する学び
デジタル技術やデータサイエンスに関する学び

専門科目 12単位以上

下記の16の領域において、理論の講義や実技指導を行う。

<スポーツ・健康分野>

スポーツ指導者、スポーツ心理学、健康スポーツ運動学、体力医科学

<音楽分野>

音楽学、音楽実践論、管楽器、ピアノ、声楽、作曲

<美術分野>

洋画、日本画、彫刻、デザイン、美術史、文化財保存科学

ゼミナール科目 8単位

スポーツ・芸術に関する課題の事例を用いて、ケーススタディの演習を行う。具体的には、専攻生が、文献に出てくる事例や協働機関の事例についてレポートを行い、専攻生同士で議論する。このことを通して、スポーツ・芸術に関する課題解決に向けたプロセスや具体策について学ぶ。

1年次は学際性の修得を目指し、スポーツ、音楽、美術や文化振興、社会教育、デジタル技術等様々な分野の教員が参加し、複合的な視点で授業を行う。**2年次は専門性の深化**を目指し、学生の専門とする分野を掘り下げる。

研究指導（修士論文）

専門×他分野×データサイエンス/DX担当教員による指導体制

他分野教員及びデータサイエンス/DX担当教員が副指導教員として研究指導に参加し、複合的な視点で研究指導を行う。特にデータサイエンス担当教員は、データサイエンスの観点から質の高い研究となるよう研究デザインの立案や分析手法に関して指導を行う。

共通科目 14単位

地域社会の実情や、地域における文化振興、地域の人々にスポーツ・芸術を教えることに関する講義を行う。また、課題解決に向けたDXの活用方法やデータサイエンスの実践的なデータ分析手法に関する講義を行う。

協働機関との連携

共通科目、ゼミナール科目においては、地域の協働機関との連携も図る。具体的には、協働機関の方を講師として招き、教員と共同して講義を行ったり、協働機関にて実践的な現場学習を行う。

●協働機関

高知県／総合型地域スポーツクラブ／芸術文化施設／NPO法人（芸術系）／スポーツ・アートマネジメントオフィス 等

修了後の進路：市町村スポーツ協会職員／芸術・文化施設職員／文化財団職員／行政職員／デザイナー・イラストレーター／音楽・映像等の制作企業／スポーツ・健康関連企業／スポーツ・芸術施設運営企業／スポーツ・芸術のコーチ・インストラクター・講師 など

スポーツ・芸術文化活動の活性化、スポーツ・芸術の指導者の増加

※設置構想中の内容であるため、今後変更の可能性がります。